

# 学びて時に之を習ふ 『論語』

子曰、<sup>ハク</sup>「<sup>ビテ</sup>学<sup>ニ</sup>而<sup>フ</sup>時<sup>ヲ</sup>習<sup>ズ</sup>之、<sup>バシカラ</sup>不亦<sup>ヤ</sup>説<sup>ハ</sup>乎。」

孔子をさして先生  
置き字  
読まない  
復習して体得する  
なんてうれしいことが

リより  
下ニ上ニ  
有朋自遠方来、<sup>タル</sup>不亦<sup>シカラ</sup>樂乎。

人不知而不愠、<sup>シテ</sup>不亦<sup>ナラト</sup>君子乎。」

子曰く、「学びて時に之（これ）を習ふ、

亦（また）説（よろこ）ばしからずや。

朋（とも）遠方より来たる有り、亦樂しからずや。

人知らずして愠（うら）みず、亦君子ならずやと。

現代語訳

孔子先生はいいました。

習ったことを復習し身につけていくことは、なんと喜ばしいことだろうか。

友人が遠方からわざわざ私のために訪ねてきてくれることは、なんと嬉しいことだろうか。

他人が自分を認めてくれないからといって不満をもたない。それはなんと立派なことだろうか。